

# 宮川の風 第62号

平成30年10月19日（金）発行  
宮川小学校校長室からのたより

私が小学校低学年の頃までは、スーパーマーケットやコンビニがなくて「魚屋さん」「八百屋さん」「酒屋さん」などの店が点在していました。私は、魚屋さんが魚をさばく様子に興味を惹きつけられて、母親が買い物をする間、近くで見入っていました。だからといって、今、魚を上手にさばくことはできませんが…。

その頃のお店では、店側と客側が何らかのやり取り（会話）をせずには商品は得られませんでした。「今日はどの魚がおいしいですか」「今日は新鮮なサバがあるよ」「ではサバを2匹、煮付け用をお願いします」「はいよ。300円です」などと。子どもの世界でも、駄菓子屋さんのおばちゃんやおじちゃんと話をしながら、お菓子を買ったりくじ引きをしたりしました。人と人とのつながりが自然にあったのです。

今はどうでしょうか。スーパーでもコンビニでも一言も話をしなくても商品は購入できます。店側から何か尋ねられても、客は首を縦か横に振れば済みます。金額は、電気で表示され支払いはカードでピッ。店員さんの「ありがとうございました」に「こちらこそどうもありがとうございました」と応じる人はほとんどいません。気楽な反面、これでいいのかなと考えます。

裏面の記事をお読みください。

人と人との近所づきあいがいかに大切かが分かります。人間関係は煩わしいと、人づきあいを避けてはいけないのです。これから数年後、社会で生きていく子どもたちに、人との関係を教えなければなりません。学校で地域で人と関わりながら、人とのつながり方を学ばせることが重要です。衝突もあるでしょうし、自分勝手にはいかないことも当たり前です。スマホの活用が悪いとは思いませんが、やはり人間は「人」との「間」にすることが必要なのです。大人の私たちも考えなければいけません。

2年生が国語の授業でインタビューに来ました。それをまとめた作文です。

## 校長先生のしごと

校長先生のしごとは、みんながけがをせずにあんげんに学校にいけるようにすることです。ある日のしごとのことを書きます。

あさ、みんながあんげんに学校にこれるようにみまもります。みんなが、けがをしないように見ながら、つうがくろをいっしょにあるきます。

ぼくたちがじゅぎょうをしているとき、学校をまわっています。みんなが、たのしくべんきょうをしているか、みまもるためです。きゅうしょく時間は、みんながあんげんにたべられるように、さきにたべます。のこさずぜんぶたべます。昼休み、あそんでるようすを見ます。たのしくあんげんにあそべるようにするためです。

みんながかえったあと、話しあいをしたりあしたのじゅんびをしたりします。みじかい時間でおわらせるくふうをしています。

これでようやく校長先生のしごとがおわります。

上手に紹介してくれました。

## ある日のできごとから

火曜日の全校音楽では、全体合唱の後、3年生が発表してくれました。最初に、3年生になって学習が始まったリコーダーで美しい演奏を披露してくれました。最後に披露した歌では、担任先生の子どもの頃を紹介してくれました。「けんかが強かった〇多先生」「かえるが怖かった梶〇先生」。本当かどうかは謎のままです。3年生の皆さん、素晴らしい発表をありがとう。（発表の様子をHPにもアップしていますのでご覧ください。）

運動会が終わって、朝のあいさつ運動に活気が戻りました。毎朝、30人以上の子どもたちが正門に立ち、「立ち止まって」「相手の目を見て」「元気よく」などのカードを持ってあいさつをしてくれます。低学年の子どもたちも参加したりします。

ブルーベリーロードを散歩していた男性が「子どもたちから元気をもらいます」と笑顔で話してくださいました。学校だけでなく地域にも元気を届けている宮川っ子たちです。

（文責；鹿児島市立宮川小学校長 松永幸二）

